

第63回 鎌倉まつり

# 静の舞

オンライン配信

YouTube映像配信開始日

2021年

5月14日 [金] ~

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、  
オンラインにて無料配信いたします。  
※鎌倉市観光協会ホームページ  
「鎌倉観光公式ガイド」よりご覧いただけます



## 出演

花柳流 花柳 静美々 (はなやぎ しずみみ)

## 会場

鶴岡八幡宮 舞殿

## 主催 / 問い合わせ

公益社団法人 鎌倉市観光協会  
TEL. 0467-23-3050  
<https://www.trip-kamakura.com/>



## 共催

鎌倉市

## 協賛

神奈川トヨタ自動車株式会社

## 静御前が、愛する義経をしのんで舞う

鎌倉時代の正史とされる「吾妻鏡」によると、鎌倉幕府を開いた源頼朝は、平家討伐に武勲のあった弟義経と不仲になり、義経追討の兵をあげます。義経は京の白拍子静とともに、武蔵坊弁慶らわずかな手兵をつれて吉野山に逃れました。頼朝側の追手が迫る中、義経一行は山伏姿になって東国に向かうことに。

静には金銀を持たせ、供の者をつけて京都へ送らせました。ところが、途中で供の者たちに金銀を奪われ、山の中に置き去りにされた静は捕らえられてしまいます。その後、鎌倉の頼朝のもとへ送られ、義経の行方を厳しく問われますが、静は答えません。

頼朝と政子は、舞いの妙手として京で名高い白拍子の舞いを見たいと、静に鶴岡八幡宮での舞いを求めます。病気を理由にその申し出を断っていた静も、熱心な求めに観念し、ついに舞台上に上がります。

その舞台で静は

「よしの山峰の白雪ふみ分けていりにし人のあとぞこいしき（吉野山の白雪を踏み分けて奥州に消えたあの人の《義経》の跡が恋しく思われる）」、「しづやしづしづのをだまきくりかえし昔を今になすよしもがな（静、静と繰り返して私の名を呼んだあの人が輝かしかった頃にまた戻りたいものだ）」と詠い、舞いました。

そのあでやかな美しきは、居並ぶ幕府の者たちを感動させましたが、頼朝は「自分に逆らう義経を恋い慕う歌を詠い舞うとは不届きだ」と激しく怒ります。それを見た政子は、かつて自分が頼朝を思い慕った日々の女としての苦しみ、悲しさを教え諭して、頼朝の怒りをなだめます。

おかげで処分を免れた静は、市内の片隅に住居を与えられ、お腹に宿していた義経の子である男の子を産みましたが、「男子を生かしておいては将来に禍根を残す」と、幕府はその子を取り上げて由比方浜の海に沈め殺めてしまいます。傷心の静は京に帰されますが、それ以来静の消息は途絶えました。

静御前のこの悲しい物語は、以後も人々の胸に残り、語りつがれ、謡曲や浄瑠璃にも作られて、今に残されています。



### 花柳流 花柳 静美々 (はなやぎ しずみみ)

花柳流師範 花柳花静女師に入門。  
2004年より花柳流家元直門、花柳花人師に師事し、  
現在に至る。



「静の舞」演者インタビューはこちらからご覧いただけます



## mobility life

みんなの暮らしにちょっと楽しく  
ちょっと快適なモビリティライフを。

